OECU NEWS

Osaka Electro-Communication University

大阪電気通信大学 学報
2015年 5月8日発行
発行：学校法人 大阪電気通信大学
〒572-8530 寝屋川市初町18-8
TEL 072-824-1131(代)
http://www.osakac.ac.jp
324 号

さあ未来へ踏みだそう

2015年度入学式

努力を惜しまず充実の4年間を

宣誓する入学生

2015年度の大学・大学院の入学式が4月3日、四條畷キャンパスのコナミホールで行われました。また、高等学校の入学式は8日、守口市の高校体育館で行われました。

入学生は大学院74人、大学1,318人、高校254人。学園全体で1,646人が祝福を受け、新たな一歩を踏み出しました。

学術交流協定による留学生は、中国・北京科技大学、韓国・湖西大学、オランダ・アムステルダム応用科学大学から24人を迎え、入学式に先立ち4月2日、四條畷キャンパス KOZUKIホールで歓迎会が催されました。

留学生

祝辞

思い出に残る楽しい学園生活を

理事長　成瀬　淳

ご入学おめでとうございます。

きょうから大学生として、小学校、中学校、高校と続いた学校生活の最後の勉強の場ということで、生涯思い出に残る4年間になると思います。

本学は1941年、皆さんのおじいさん、おばあさんの生まれた頃かと思いますが、通信工学を学ぶ学校として発足、1961年には大学がスタートし、以後45,000人を超える卒業生を出しております。社会における卒業生への評価は非常に高いものがあります。その評価を一口で言うと、実直であり、愚直であり、派手ではないかもしれませんが、企業や研究所などで根幹を担う頼るべき存在となっております。

よくご存じのアップルを創業したスティーブ・ジョブズが学生に対する講演で「Stay Hungry. Stay Foolish.」と言っています。ハングリー精神を持つとともに愚直であれというわけで、まさに本学の卒業生に対する評価と一致するものであります。

大学では、各自が意欲を持って自主的に行動することが求められます。また、大学生活の中では、質の高いコミュニケーション能力が得られます。長い人生で自分の意見をしっかり言って他の人と対話できるということは、きわめて重要なことです。クラブ活動や同好会に積極的に参加して活動することも是非検討していただきたい。

教職員は一丸となって皆さんを見守って成長を促してくれると思います。保護者の方々、ご家族の方々の温かいご支援に感謝して、充実した楽しい学園生活を送ることが何よりの恩返しと思って、頑張ってください。

告辞

軸や目標を持ち、前に進むことでチカラを付ける

学長　橘　邦英

皆さん、本日は満開の桜のもと、大阪電気通信大学へ御入学おめでとうございます。御列席の保護者の皆さまにも、御子息、御息女の御入学を心よりお祝い申し上げます。

本学は昭和36年(1961年)に設立され、今年で創立54年を迎えます。当初は、工学部のみで出発していますが、その後、1995年に情報工学部(2002年に総合情報学部に改称)、2004年に医療福祉工学部、2005年に情報通信工学部が創設されました。また、2009年には金融経済学部が創設されて、現在は、大学全体として5学部13学科の構成となり、人々の豊かで安全な生活や文化の創造を支援する科学技術と経済の幅広い分野で、有為な人材の育成を使命とする高等教育機関としての展開を図ってきております。そのため近年では、この後の話にも出てくるように、本来の大学名である大阪電気通信大学の英文名 Osaka Electro-Communication University の頭文字を集めたOECUを愛称として積極的に広めていき、皆さんに使ってもらうことを推進しています。

本学では、創立以来、実学を重視した教育を進めてきていますが、我々の意図する実学とは「世の中で役に立つ学問」ということです。その実学というものをわかりやすい言葉で表現することによって、4年間にどのような力をつけていけば、社会にでて活躍できる人間になれるのかを示すことにし、全学的な教育指針(カリキュラム・ポリシー)としています。

それは、次の3つの実学のチカラを修得することです。第一には、手が動かせること。これは、与えられた課題に対して、修得した知識や手法を活用し、とにかく手が出せる能力を意味しています。第二には、絵が描けること。これは、自分の頭の中で考えていることを、簡単な図解によってビジュアルに表現できる能力を意味しています。第三には、コミュニケーションができること。これは、社会で生きていく中で最も重要視されているチカラですが、相手の考えを理解し、自分の考えも伝えられる双方向の意思伝達と協働作業ができる能力です。このような3つのチカラを、共通教育科目、基礎専門科目並びに各学科での専門科目を通して、着実に身につけていって欲しいと願っています。

本学では、その実学の学修課程を、次の4つのステップで表現しています。

①ときめき→②実践→③感動→④発展

まず初めに、大学に入ってこんなことができる、あんなことがしたいという、ときめきの気持ちをもってもらうことから始まります。そのために、各学部や学科でどんな勉強をするのか、将来どんな道へ進めるのかといったガイダンスや導入教育を行います。そして、第二段階で実際の勉強や実験・実習を進めます。そうすれば、学んだり修得したりしたことから、こんなことができるのだという実感が得られ、結果が具体的な形として見えてきます。それが第三段階の感動の学びです。そうすると、次には、それを別のことや、新しいことに応用してみたいという意欲がわいてきます。それが第四段階の発展の学びです。そのそれぞれのステップを英語で、多少意訳になりますが、Opportunity, Experience, Capability, Utility という単語を当てますと、その頭文字を集めたものがOECU、すなわち大阪電気通信大学の英文名の頭字語になっています。本学では、それを実学学修の「OECU4ステップ」と呼んでいます。

このようなステップの中では、本学の特徴である情報通信技術すなわちICTを取り入れた学修法を活用して、皆さん一人ひとりが主体的な学修を進められるアクティブラーニングや課題解決型学習のカリキュラムを取り入れるよう改革を進めてきています。ちなみに、OECUの真ん中の2文字はElectro-Communication ですが、縮めれば e-communication になります。“大阪で一番コミュニケーションのよい大学”という意味も込めていますが、ICT すなわち情報コミュニケーション技術を全学共通のツールとして修得してコミュニケーション・スキルを磨き、その上に「実学のチカラ」を身に着けていってもらうことが一番の願いです。

その目的をより明確にしてもらうために、今年から新しい試みを取り入れることにしました。新入生の皆さんには、情報関係の基礎的入門科目の中で、一人ひとりの目標として、1年の間に取得したいICT関連の資格を自己申告してもらうことにします。例えば、国家資格のITパスポートや、マイクロソフトのワードやエクセルに関するMOS (Microsoft Office Specialist)検定などでもよいし、それ以外にも広い意味でICT関連であれば何でも構いません。その自分が立てた目標に向かって、関連の科目の中で勉強したり、課外の補習講座や直前の受験支援講座で準備をしたりして、1年以内に受験をしてもらいます。みごとに合格すれば、学長から何らかの褒賞を差し上げるという約束にしたいと思っています。ともかく、自分自身で設定した目標に向かって努力し、それが達成できたら自信がつきます。この成功体験をすることで、前に向かって進もうという勇気と希望、すなわち向上心が自然に湧いてきます。

ここで、向上心ということに関して、一つお話をしたいと思います。皆さんは2次元的思考と3次元的思考という言葉を御存じかどうかわかりませんが、その違いが推察できるでしょうか。2次元は平面ですが3次元では垂直軸が加わります。3次元的思考では垂直軸を価値観に対応させています。2次元つまり現実の世界での物質やお金のようなものではなく、尊敬の念とか憧れといった無形の価値観です。最近では、自分より優れた能力をもっている人をリスペクトして自分もそうなりたいと思ったり、いつかはその人を超えたいと思ったりするよりは、むしろ2次元的世界の中で、目標や課題をお金や何かで解決してしまう風潮が強くなってきており、縦軸の価値観という指標を見失ってきてしまっています。例えば、「自分の足で速く走る」ことの能力を得ようとするより、課題をすり替えて「高級車を買って疾走する」方が、簡単でかっこよくて快楽を感じると言った風になってきていないでしょうか。大学での4年間の学生生活の中では、自分自身の第3の軸をしっかりともって、それに沿った目標を立てて前に進んでほしいと願っています。

ついでに、ラボックという探検家が言った言葉を紹介しておきましょう。

“他人と比較して、他人が自分より優れていたとしても、それは恥ではない。しかし、去年の自分より今年の自分が優れていないのは、立派な恥だ。“

最後に、実際の学生生活で役立つことを一つお話します。皆さんには、このあとオレンジ色の学生手帳が配布されると思います。その手帳には学生生活で必要な手続きや、学修支援などについて有用な情報が掲載されています。カレンダーの日付の部分には、予定の記入欄の脇に、6つに区切った枠があります。そこに、その日に覚えたこと、気づいたことなどについて、何でも結構ですから、少なくとも3つ以上、できれば5つ程度のキーワードを記入していって下さい。文章を書いたり、アイデアを考えたりするときに、キーワードをポケットに持っていると、その幾つかを取り出してストーリーを組み立てたり、キーワードの組み合わせから新しいアイデアを連想することができます。そのような発想法や思考法については、そのうちにキャリア科目等で学びますが、できるだけ多くのキーワードを貯め込んでおけば、いろいろな場面で役に立ちます。たとえ、1日3つとしても1年では千以上になるはずです。

最後に、本学のすべての教員や職員は、皆さんの学業の支援や将来の夢をかなえる手助けをしますので、困ったときや迷ったときには、遠慮せずに相談して下さい。皆さんが、それぞれに自立した個人として、悔いのない学生生活を送られることを願って、入学式の告辞といたします。

「課題」と「改革」の方向性とは
これからの大学

昨年9月に学校法人大阪電気通信大学の理事長に就任した成瀬淳氏が3月の理事会で再任され、成瀬理事長と橘邦英学長を中心とする新体制が発足しました。これを機に、理事長・学長の対談を行い、学園が今後進めていくべき改革の方向性について、うかがいました。
（司会：法人事務局　羽藤大資）

対談

理事長 成瀬　淳 × 学長 橘　邦英

――3月8日の理事会で、今後の新体制について理事長から発表されました。その概要についてうかがいたいと思います。まず、法人の運営方針の一つとして、全教職員参画によるビジョンづくり、MV²（※）プロジェクトについてお話しください。

成瀬淳理事長　大学、高校、そして法人、の三者が一緒に、全体として一つの方向に動くときに、何を中心として動いていくかが大切です。多彩な人たちがいて、多様な意見を持っておられます。それは我々の強みです。一人一人の強みを結集して、さらに進歩していくときには中心、或いは核となるものが必要であり、我々の場合は建学の精神がそれに当たると思います。本学は建学の精神を基に発展してきたわけですが、それをさらにブラッシュ・アップする作業が求められます。この課題に対して、学園を実際に支えている教職員の皆さんが自分の問題として捉えて考えてみることが肝要です。このプロジェクトだけではなく、今後展開していくことになる他の課題についても同じような精神でやっていく必要があるわけです。その最初の一つの動きとして、このMV²を全体でまとめてみようと考えました。学長とも相談しながら検討した結果、委員会を作って理事会に答申してもらおうということになりました。そして委員長を松浦秀治教授（工学部電気電子工学科）にお願いすることになりました。年齢を問わず、若い層にも展開して、議論を進めていく。また幅広くいろんな議論がなるべく学園全体で盛り上がるように工夫をしながらやっていく。動いていくべき方向の基になるMV²を全体で一致団結して作っていくことと、プロセスの成果物であるMV²だけではなく、その過程で経験するみんなで協働してやっていくという風土を作り上げること。これが二重の意味で大切じゃないかと思うんですね。

――全学の教職員、特に若手からのボトムアップによるビジョンを再構築していくプロジェクトということですか。

成瀬　みんなで考える中で全体としてまとめていくということですね。

――次に、OECU理事長諮問会議（R-キャビネット）について。

成瀬　学園の経営をまとめていくうえで、理事会が最高議決機関として動くわけですが、理事の方々は皆さん多彩で有能な方ばかりです。一方、評議員の方々も大学に関心が深く、問題意識を持って参加しておられる。ところが、理事の半分くらいを占める学外理事の方には理事会で議論に参加していただいているだけで、持っておられる知見を発揮していただける機会に欠けると思います。逆に全学の教職員から見ても、どんな方がどういう考えを持っているかが、わかりにくい状況にあります。いま検討している諮問会議にメンバーとして登録していただいて、自由闊達に意見を述べていただく。あるいは分科会をつくって、そこで議論を煮詰めていく。それを参考意見として理事会で活用したいということですね。評議員の皆さん、理事の皆さんは当然ですが、同窓生の皆さん、後援会の皆さん、企業の方でも本学園を注目して見守っていただいている方もおられますから、そういう方々の多彩な意見、アドバイスをうかがう場にしたいですね。

――大学、高校、法人と連携しながら中長期計画を策定するに当たって、このキャビネットをどう活用していきますか。

成瀬　キャビネットで提案される多彩、多様の貴重なご意見を集約しながら、理事会でそれを深めていくということになります。テーマごとに具体的にどうなるかは、メンバーの活躍の仕方、まとめ方にもよりますが、法人事務局でキャビネットの事務局をつくって、意見を集約していくことになると思います。

――中長期計画の具体化について、二つ表明されています。理事会の中で各理事の方に一定の分野を管掌していただくという考えについてご説明ください。

成瀬　学外の理事の方々は現状理事会で議論していただくことだけになっています。各理事からは学園の運営全体に知見やアドバイスをいただくのですが、その中でも自分には特にこういうところに強みがあるのでこういう分野を見てみたいということがあれば、表明して頂いて、また情報を教職員の方にも共有してもらっていいのではと思っています。私の経験から言っても、これは十分に機能していくものと確信しています。

――各理事が学園の教職員とも連携して情報交換しながら、それぞれの分野の理解を深めていく、それが学園の運営に反映されていくということですか。

成瀬　すぐにその場で効果が出るかどうかはわかりませんが、そういう努力をしていくことで学園の風土や雰囲気がもっと前向きに変わっていくものと、楽しく活性化した活動が展開できると期待しています。

――学園内の実学マインド・実学的雰囲気の醸成について。

成瀬　卒業生は製造業だけではなしにいろんな職場に入っていきますが、社会に出てからはほとんどの職場で5S（整理、整頓、清掃、清潔、躾）が強調されます。3Sという職場もあり、さらに8Sという企業もあります。そういうDisciplineを徹底しようということです。単に机の上の整理ということだけにとどまらず、考え方の整理や論理的、合理的な思考方法の獲得にもつながっていきます。物理的な整理整頓に加えて考え方の整理整頓が、学園全体のマインド向上につながり、学園内の倫理のベースにもなります。

――理事長から見て、教職員が将来的に目指す教職員像、イメージをお話ください。

成瀬　どうしても大学の環境は自分の研究室が中心と言うことからスタートして、学科、学部、キャンパス、そして全体ということになります。したがって教職員の皆さんは大学の運営と言うところまでは目が届かないのが実態だと思います。大学全体の運営を少し頭に入れて、隣の学科はどうなっているか、学部はどうか、学園全体はどんな状況で何が必要か。忙しい中でも、そういうマインドを持つだけで随分変わってくるものです。そこができれば、さらに全体として一つの方向に動いていけることになります。

――理事長の表明を受けて、経営部門と教学部門との連携強化について、大学の学長としてご意見をいただきたい。

橘邦英学長　一般に、学生や保護者の方、社会の方にとって、学校法人と大学との関係はなかなかイメージしにくいかもしれません。プロ野球で言えば、オーナーやフロントから成る経営陣、一方、監督・コーチ・スタッフ、それに選手が加わっているのが実際のチーム、この関係を想像すれば理解しやすいのではと思います。経営陣はどういうカラーの球団を創設し社会的にアピールしていくか、実際のチームではそれを反映した個性的なチームをどう実現するかということになります。これに例えれば、法人は大学を設置して社会的にどういう責任を果たしていくかを考え、大学を実際に運用するための経営基盤を確立する役割ですよね。それに対してチームを任されている監督すなわち学長としては、基本方針を法人側と共有し合った上で、実際に大学をどう動かすかが委託されている。その役割分担は互いに理解しておかないといけません。その役割がミックスされてしまうと、混乱を招くことになってくる。きちっと整理したうえで連携していく必要があります。

高邁な理念や目標があっても、それを現場でどう実現するかとなれば、具体的なアクションプランとしての中長期計画が必要になってきます。ですから、先ほど話の出た実学、これは非常に大まかな言葉ですが、実際、我々の大学の実学はどうか、と定義まで落とし込んで、本学ならではの実学をどう実現するかが学長に委託されています。そこで教職員ときちんと認識を統一して、目標が決まったらそれに対する計画を作っていくことが必要です。私は3年前に学長になって以来、他の大学の実学とは違った独自性を明確に表現したいと考え、実学に「右脳を活用した」という形容詞をつけたり、手と頭と心に3つのチカラをつけるための4ステップOECU実学教育という形で学修課程を具体化したりすることをやってきました。

――今後、理事長の表明されたことを全学の教職員と一体となって進めるということですね。

橘　本学は50有余年の歴史があり、名前にも「電気通信」を使っています。この名前を活かすような実学を表現することが重要です。5学部13学科の共通の土台としてあるのは、大学名が具現している情報通信技術（ICT）です。ITからICTへと時代が変わり、再び我々に追い風が吹いてきました。大学の理念をうまくアピールできる時代が再来したのです。今日、大学教育ではどんな人を育てるのですか、どんな能力を保証するのですか、と盛んに言われます。その中で、我々の学生はICTを共通の基盤として全員に教えていますよ、その上にそれぞれの専門性を加えた人間力がプラスされていますよ、と言えるようにしたいと、この3年間努力してきました。それをより上手に表現してインパクトを強めていく。そのために、いま理事長が計画されている全教職員によるビジョンづくりに期待を寄せています。

※MV²(Mission Vision Value)
「全学本学園が何のために存在し（Mission）、どのような将来構想を描き（Vision）、どのような価値を提供できるか（Value）」

2014年度
学位授与式

希望を胸に新たな道へ

2014年度の学位授与式が3月21日、四條畷キャンパスのコナミホールで行われました。

式は、①工学部、医療福祉工学部②情報通信工学部、総合情報学部、金融経済学部③大学院の3回に分けて行われ、1,069人が新しい門出を祝福されました。

学位記授与、橘邦英学長による告辞、成瀬淳理事長の祝辞のあと、37人に学業優秀賞が授与されました。

また、高等学校の卒業式は2月19日、コナミホールで行われ、普通科、電子工業科合わせて350人が卒業しました。

2014年度学業優秀賞受賞者

①:1年次　②:2年次　③:3年次　④:4年次

電気電子工学科
①荒木駿哉、片岡航、長野公亮、南川匠
②品川努、継木康之、堀武揚
③久保田健太、野口遥平、松本健一
④稲田皓大、幸王貴則、武田雅之

電子機械工学科
①上神健二、篠原遼太郎、増田広大、向井誠嗣朗
②鵜瀬篤志、中村有希、安井大輝
③佐伯拓哉、田中文将、濱中崇文
④岡本啓汰、星簇志帆

機械工学科
①津金達也、辻中優哉、堀部悠河
②亀岡直紀、福井慎司、森岡慎平
③岸　拓弥、長江哲弥、宮本晋太朗
④天野恭輔、岡野哲也

基盤理工学科
①髙田晨、丹波健
②大久保誠、木村聡志、力石将徳
③格清菜穂、上泉暁哉
④河渕康宏、酒井勇太

環境科学科
①髙下裕佳子、道下僚、平尾陽子、宮形知美
②奥井志穂、髙島千香、松田新司、南出拓
③栗秋章吾、篠山真理、宮川隼人
④伊藤孝太郎、柴﨑亨、前川依里佳

情報工学科
①井平翔、小田航也、竹末裕、田邉優汰、平見匠、松本真澄、八尾洋行
②大野翔平、岡本裕次、金川崇、友實涼二、西澤慶、間嶋義喜
③田村てるみ、木村駿佑、林知宏、松村健右、和田直也
④井原英幸、尾﨑光斎、澤田史、真鍋祥

通信工学科
①板羽真実子、川原未佑、西臺央、南川智揮
②坂本健太郎、西村優、松本啓志
③尾辻広太、栗正浩
④窪田直樹、真栄平充史、吉坂泰良

資産運用学科／アセット・マネジメント学科
①赤井恭平、工藤尚也、二ノ宮迅登
②佐藤公士郎
③上村太輔
④内田健太郎、奥野誉生

医療福祉工学科
①下司真佑美、佐藤隆亮、高林博史
②岡本和也、後藤陽実、吉川晴規
③金澗圭佑、柴田英宣
④出丸純平、三好達朗、横川慎

理学療法学科
①栂茉由子、永廣大祐
②北林優惟、近藤夢芽
③野崎千紘
④松本光平

健康スポーツ科学科
①穴井智之、上羽怜奈
②金奈穂、花房秀次
③坂本和生、松村直哉
④辻本晃大、元井伸幸

デジタルアート・アニメーション学科
①小椋清加、喜田祐輔、中瀬優佳、平山祐輝
②小倉貫治、谷垣由紀子、出口夏子
③足立明穂、伊藤由香、樋上弓華
④麻生真佐恵、岩木翼、九島啓介

デジタルゲーム学科
①浅倉和之、STEVANIE ANGRENY、軸原弘貴、芳賀誠
②大泉銀河、越智雄大、引田拓吾、三鬼紗也佳
③石倉秀馬、中西明日香、宮井理人、石井岳
④伊藤佑一、梶原貴広、谷口萌、矢野和秀

情報学科／メディアコンピュータシステム学科
①上野幸輝、藤本大司、宮崎航、藪田優平
②安藤亮平、腰本繁人、小林史弥
③土田和人、三谷峻生、矢野大貴
④永戸貴洋、福島小春、松浦裕哉

また、大学院博士課程を修了した次の3人に、博士(工学)の学位が授与されました。

- 岡田　裕也　工学研究科制御機械工学専攻
- 酒井　徳昭　医療福祉工学研究科医療福祉工学専攻
- 高田橋篤史　医療福祉工学研究科医療福祉工学専攻

学位記を持つ岡田さん(右)

高田橋さん(左)と酒井さん

留学生謝恩会

留学経験を生かし、未来につなげる

謝辞を述べる高(コウ)さん

「情報通信工学部・総合情報学部・金融経済学部」の学位授与式のあと、コナミホールで、中国からの留学生32人による謝恩会が行われました。

まず成瀬淳理事長が「初めて海外に出て体験されたことは、皆さんの人生において大きい財産となることでしょう。これからも是非交流を深めて大切な隣国同士である両国の交流に役に立っていただきたい」と激励しました。

これに対し、留学生を代表して、アセット・マネジメント学科(現・資産運用学科)を卒業した高　峰(コウホウ)さんが「先生たちの、時に厳しい、時に温かい指導、友人たちとともに乗り越えた厳しい試練など、すべてが私たち卒業生の財産です。これから私たちの行く道はもっと厳しい道かもしれません。でも、苦しくなった時は先生たちのお言葉を思い出し、自分たちのいままで学んだ経験を生かし、前に進みたいと思います」と、感謝と決意の言葉を述べました。

最後に、橘邦英学長が「皆さんの写った写真です。日本の文化も勉強していただき、自国の文化とうまく融合して生かしていただければと思います」と話し、記念品を贈呈しました。

なお32人の内訳は、江南大学10人、北京科技大学22人。学科はデジタルアート・アニメーション学科13人、デジタルゲーム学科5人、アセット・マネジメント学科14人。

駆けつけた家族、恩師らと記念撮影

告辞

「あくなき努力」を忘れず社会で活躍を

学長　橘　邦英

ご卒業おめでとうございます。学位が授与されたという意味での卒業は英語でgraduationですが、アメリカでは一般にCommencementと言っています。その意味は「始まり」、つまり長い学生生活を終えて社会に出て行く出発点を表しているのです。

ほとんどの方は民間会社など何らかの社会組織に入り、その一員として協働していく、ともに協力しながら働くことになります。まず皆さんは社会における組織の目的や責任を定めた社是とか理念を理解して共感すること、また組織の運営の責任を持つ代表者の考えをしっかりと理解することも必要です。

皆さんは無洗米というものをご存じでしょうか。BG法といって、ヌカでヌカを取る方法でつくられています。和歌山のあるメーカーの社長さんが開発したのですが、ズボンに付着したガムを取り除くのに別のガムを上から当てて引きはがす方法を思いつき、ヌカ同士をくっつけたらとの考えに至ったのです。

ここまでなら素晴らしい発明家で終わる話ですが、この社長はICTを活用した新しいビジネスモデルも考えています。フランチャイズ契約した精米会社に無洗米の製造設備を設置し、設備全体をブラックボックス化して、機械の状態をインターネットで遠隔監視するシステムを構築したのです。

ここで私が言いたかったことは二つあります。一つは、アイデアは常に問題意識を持つことから生まれる。二つ目には、ICTの活用が新しい可能性を生み出すということで、特に本学を卒業される皆さんは50有余年の歴史に根ざしたICTを基盤として、その上にそれぞれの専門教育を受けました。この第2の点を活用して、社会に出て大いに活躍されることを期待しています。

最後に、四つの言葉をはなむけとして贈ります。「焦らず、くさらず、くじけず、諦めず」。四つの言葉のうち最初に「あ」がつくのが二つ、「く」がつくのが二つあります。それがダメと言っているわけですから、「あくなき努力」と覚えてください。将来、困ったときや行き詰まった時にはこれを思い出してください。

祝辞

学んだことを糧にまっすぐ進んでほしい

理事長　成瀬　淳

卒業生の皆さん、おめでとうございます。本学は45,000人を超える卒業生を出していますが、いろいろな方に卒業生の活躍ぶりを聞きますと、卒業生は実直で愚直であると言われます。

京都にある製造会社の社長さんと話していると、創業の仲間の一人が本学の卒業生で、実直で愚直に物事をやっていく、派手ではないけれども、企業の中核を担って頼りになるとおっしゃっています。スティーブ・ジョブズが学生の前で言った「Stay Hungry. Stay Foolish.」という言葉。Foolishはそのまま訳すと「愚かな」ですが、適切な日本語に訳すと「愚直」です。ジョブズの言ったことも、本学の伝統的な雰囲気に合致すると思います。

皆さんは社会に出ていろんなことを経験されます。困難に遭遇し、いろんなチョイスを迫られます。右に行くのか左に行くのか、しばしば問われます。17世紀の哲学者デカルトの「森の旅人」にあるように、深い森の中に皆さんが迷い込んだと仮定してみましょう。日が暮れてくる、お腹もすいてくる。遠くにオオカミの遠吠えが聞こえてくる。じっとしていると、オオカミに襲われるかもしれない。餓死するかもしれない。どうすればいいのか。この例えでデカルトが言うのは、その時点でよく考えて、人の意見を聞きながら、こっちだと決断すると、迷わずに愚直にまっしぐらに進んでいく。すると、必ず森の出口に出るということです。大学で学んだことをベースに、自信を持って、よく考えて一度方向を決めたら、愚直にまっすぐに進んでいただきたい。

時は春。ご家族の方々、研究室の先輩、先生方の恩を胸に秘めて、心の糧として自信を持って進んで行かれることを祈念します。

学科のいいね！ VOL.5

情報学科

ゲームで触れる“情報教育”

情報学科では、毎年5月に新入生を対象とした学外研修を実施しています。この学外研修は、学生間や教職員との交流を図るとともに、正課及び課外の活動を助成し、教育効果を高めることを目的として行われるものです。

2014年度の学外研修では、兵庫県神戸市西区の『パナソニック(株)ITプロダクツ事業部 神戸工場』と兵庫県神戸市北区の『しあわせの村』を見学した後、神戸セミナーハウスで生活を共にする学生同士が懇親会やCSアンプラグド(Computer Science Unplugged)を実体験しました。CSアンプラグドとは、コンピュータ科学を教えるための手法で、本学では「コンピュータを使わない情報教育」として実践しています。この「コンピュータを使わない情報教育」は、新入生が情報教育に触れやすくするために実施されるもので、2進数の数値が記入されているプレートを使ったゲームを行います。その他には、「ソフトウェアの仕様書設計」にも触れてもらうために、プログラムを日本語で書きそのプログラムをもとに“絵”を描くというゲームも実施し、学生同士にコミュニケーションをとってもらったり、プログラミングの難しさを体感してもらいました。

参加した学生からは「友達と共にゲームを通じて、情報分野を楽しく学べた」等の感想がありました。

機械工学科

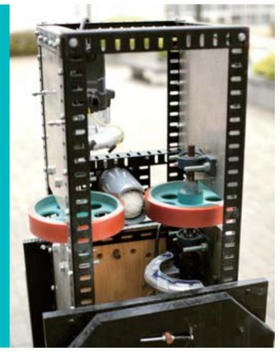
『機械創成工学実習』で工学教育を学ぶモチベーションを向上させる!

機械工学科では、3年次に『機械創成工学実習』として、学生同士で少人数のグループを組み、それまでに学んできた機械工学の知識を応用した「モノづくり」に挑戦しています。これは、学生に「モノづくり」の構想から設計・製図・部品調達・部品加工・組み立て・プレゼンテーションまでの過程を、自ら学ぶ機会を与え、創造性やモノづくりに対する学生の意識と能力を向上させることを目的としています。これまでに、「ピッチングマシーン」「起伏路面を走行可能なゴーカート」「ジャイロバイク(転倒しない自転車)」などを製作しました。

製作環境は約 50人収容の実習室を2室用意し、そこに卓上工作機械および工作台を多数設置しています。指導する教員は機械工学科の教員だけに留まらず、企業で「モノづくり」の経験を積んだ熟練技術者(実験補助員)や本学院生も指導にあたります。

機械工学科の学生や卒業生達は、こういったバックアップ体制のなかで行われる『機械創成工学実習』などを受講することによって、就職活動や就業してからも“即戦力”として活躍しています。

これら『機械創成工学実習』などの取り組みは、「企業熟練技術者を活用した産学連携工学教育」という名称で、平成19年度文部科学省が評価する「特色ある大学教育支援プログラム」に選定されております。



導入された3Dプリンタ

製作した作品

フルカラー3Dプリンタを導入

1月19日、寝屋川キャンパスの3D造形先端加工センターに、フルカラー3Dプリンタを導入しました。

私立大学等教育研究活性化設備整備事業により導入されたもので、米国3D Systems社製のProJet4500。CMYカラー約100万色の再現能力と滑らかなディテールを表現できます。素材には耐久性のあるプラスチックを使い、高品質のカラーパーツをプリントする3Dプリンタです。「モノづくり」を学ぶ授業での活躍が期待されています。

＊　＊　＊

3D造形先端加工センターは2013年10月、新しい社会のニーズに対応できる技術者を育てる「モノづくり」の拠点として、寝屋川キャンパスに開設されました。

5軸制御マシニングセンタ、高速・高性能放電加工機、3Dプリンタ、金属光造形複合加工機など、最先端の工作機器が設置され、今回新たにフルカラー3Dプリンタが加わりました。

関経連主催「3D造形先端加工センター」視察会

1月22日、関西経済連合会(会長・森詳介関西電力会長)主催のKISPサロン・メンバーシップ部会員を対象にした「3D造形先端加工センター」視察会が実施されました。

まず樋野励教授(工学部機械工学科)が「大阪電気通信大学における3D先端加工について」をテーマに講演しました。

講演に続いて、「3D造形先端加工センター」で、導入したばかりの「フルカラー3Dプリンタ」をはじめ、最先端の工作機械を見学しました。

センターを見学する関経連会員

第8回 電通大杯 マイコンカーラリー大会

熱戦を繰り広げる高校生

第8回電通大杯マイコンカーラリー大会が2月21日、寝屋川キャンパスJ号館で開催されました。

今回は、高校生を中心に全国から92人(93台)が参加し、4部門で熱戦を繰り広げました。

マイコンカーラリーはマイコン(CPU)ボードを搭載し自律走行する自作マシンで、規定のコースを完走するタイムを競う競技で、モノづくりの総括の場として、また交流の場として開催されています。

各部門受賞者(敬称略)

- **高校生Basic部門**
  - ①秋山湧輝(愛媛県立新居浜工業高等学校)
  - ②秋山和輝(徳島県立つるぎ高等学校)
  - ③佐藤奨悟(徳島県立つるぎ高等学校)
- **高校生Advance部門**
  - ①成瀬　匠(岐阜県立大垣工業高等学校)
  - ②子安克樹(岐阜県立大垣工業高等学校)
  - ③河村直樹(岐阜県立大垣工業高等学校)
- **一般部門**
  - ①深澤則正②中岡　進③田中智則
- **画像処理部門**
  - ①徳永弦久②遠藤隆記③平田将人

奈良文化高等学校と高大連携に関する協定書に調印

1月19日、奈良文化高等学校との間で高大連携校に関する協定書を締結しました。

奈良文化高等学校からは、山田勝美校長はじめ広報企画、進路指導担当者らが出席。大学から橘邦英学長、池宮達雄大学事務局長、榎本博行入試部長、田中孝憲広報部長が調印式に出席しました。

握手する山田校長(左)と橘学長

この協定は、奈良文化高等学校と相互理解に基づき連携協力することにより、互いの教育内容の充実と、学生および生徒の資質向上を図る諸事業を推進するため締結したものです。

調印式後、一行は寝屋川キャンパスの3D造形先端加工センターなど、四條畷キャンパスの臨床工学実習室、モーションキャプチャースタジオなどを見学しました。

奈良文化高等学校は、奈良県大和高田市にキャンパスのある女子高校。学校法人奈良学園が奈良学園大学、奈良学園小学校などとともに運営しています。

ビッグデータ実践フォーラム

公開講座による「ビッグデータ実践フォーラム」が4月13日から駅前キャンパスで始まっています。7月20日までの予定で、全14回。

4/13	「ガイダンス及び『ビッグデータと社会科学』」 金融経済学部・寺田貢、境隆一
4/20	「ビッグデータと損害保険商品・これからの保険販売」 (株)リピエーノ・横山理砂氏
4/27	「失敗事例から学ぶビッグデータ推進の極意」 三菱総研DCS(株)大原佳子氏
5/11	「20万人のネットユーザ行動を活用したマーケティングサービス活用事例」 (株)ヴァリューズ・後藤賢治氏
5/18	「最新ビッグデータマーケティング(SNS分析を中心に)」 (株)野村総合研究所・神田晴彦氏
5/25	「企業戦略に活用が期待される相関と回帰分析」 元関西電力(株)・今里健一郎氏
6/1	「ビッグーデータ×ものづくりの可能性(3Dプリンタ、IoT・・・)」 (株)野村総合研究所・寺田知太氏
6/8	「マンション販売の現場とビッグデータ」 日本ホールディングス(株)・安田一氏
6/15	「医療ビッグデータの医薬品安全対策への活用」 公益財団法人先端医療振興財団・鍵村達夫氏
6/22	「健康づくりとビッグデータ」 元(株)コナミスポーツ&ライフ社長／医療福祉工学部・大石利光
6/29	「住宅ローンデータから見る近畿各県の地域特性」 住宅金融支援機構・外山信夫氏
7/6	「共通ポイントサービス『Tポイント』のデータベースマーケティング」 CCCマーケティング・細川由香里氏
7/13	「株式市場分析におけるビッグデータ:ROEからエクイティスプレッドへ」 大和証券(株)・橋本純一氏
7/20	「消費者意識・行動分析におけるビッグデータの活用法」 流通科学大学・野口博司氏

パワーエレクトロニクス学会功労賞を受賞　入江名誉教授

入江寿一名誉教授は、昨年12月20日、京都市上京区の同志社大学今出川キャンパスで開催されたパワーエレクトロニクス学会創立40周年記念表彰式で、功労賞を受賞しました。

この賞は、論文規定の制定など、長年にわたり学会活動に関する貢献が特に著しいとして贈られたもので、表彰規定制定後初の受賞者となりました。

【略歴】1960年大阪府立大学工学部卒業。90年工学部電子機械工学部教授。2008年名誉教授。工学博士。
【パワーエレクトロニクス学会ホームページ】
http://www.jipe.org

情報処理学会山下記念研究賞を受賞
総合情報学部情報学科・中野客員准教授

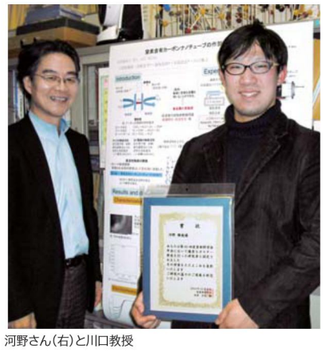
総合情報学部情報学科の中野由章客員准教授が3月17日、京都大学吉田キャンパスで開催された情報処理学会第77回全国大会で、2014年度（平成26年度）山下記念研究賞を受賞しました。

テーマは、「『LINE外し』ロールプレイングによる情報社会に参画する態度の育成」。LINEなどのSNSを用いた「いじめ」を起こさせないための指導として、特定の生徒をLINEのグループから退会させるLINE外しというシチュエーションを、情報機器を一切使わないロールプレイを通じて生徒に疑似体験させ、その危険性について学習させる教材を提案しています。

山下記念研究賞は、情報処理学会の研究会およびシンポジウム発表論文の中から特に優秀な論文の発表者に授与されるもので、同学会初代会長の故山下英男先生からの寄贈により、1994年度に従来の「研究賞」から「山下記念研究賞」に改称されました。大阪電気通信大学では、2011年3月に大学院医療福祉工学研究科博士後期課程の間辺広樹さんが選ばれて以来の受賞です。

中野先生は、「いつかは山下記念研究賞をとりたいと思っていました。今回の受賞を励みに、今後ますます本学の教育・研究に寄与できるよう情熱を持って取り組んでいきたい」と話しています。

炭素材料学会ポスター賞
工学研究科・河野雅俊さん



河野さん（右）と川口教授

昨年12月に福岡県大野城まどかぴあで開催された「第41回炭素材料学会年会」で、河野雅俊さん（工学研究科先端理工学専攻修士課程、川口研究室）が炭素材料学会ポスター賞を受賞しました。

テーマは『窒素含有カーボンナノチューブの作製と触媒活性評価』。河野さんは「発表が認められ、受賞することができ、とても嬉しく感じています。発表の内容は、静電噴霧熱分解法により窒素含有カーボンナノチューブを作製し、その特性や触媒活性について究明したもので、京都大学との共同研究の成果です」と話しています。

学生ポスターセッションで優秀賞受賞
工学部機械工学科・伊藤恵祐さん

昨年12月に京都大学吉田キャンパスで開催された「平成26年度関西支部鉄鋼プロセス研究会・材料化学研究会第3回合同研究会」の学生ポスターセッションで、伊藤恵祐さん（工学部機械工学科、井口研究室）が優秀発表賞を受賞しました。発表の内容は「噴流励起回転スロッシングの均一混合時間に関する数値シミュレーション」。

この研究会は、公益社団法人日本金属学会と一般社団法人日本鉄鋼協会が共催で開催したものです。

資産運用学科の学生が「北おおさか信用金庫賞」、「努力賞」を受賞
キャンパスベンチャーグランプリ大阪

関西の学生による新事業の提案コンテスト「第16回キャンパスベンチャーグランプリ大阪」で、金融経済学部アセット・マネジメント学科（現・資産運用学科）の学生が「北おおさか信用金庫賞」と「努力賞」を受賞しました。

「北おおさか信用金庫賞」を受けたのは、受賞当時3年生の家坂真衣さん、赤井良輔さん、小泊紫苑さん、平田知明さんのグループで、テーマは「フリートーク～不自由のない明るい未来～」。「努力賞」は同4年生の釜谷健吾さんで、テーマは「3次元マウス」。

授賞式に出席した（左から）釜谷さん、小泊さん、家坂さん、赤井さん

1月20日にANAクラウンプラザホテル大阪で開催された表彰式に出席し、表彰式後の発表会では、「北おおさか信用金庫賞」を受賞した家坂真衣さんがプレゼンテーションを行いました。

このコンテストは、キャンパスベンチャーグランプリ（cvg）大阪実行委員会が主催、北おおさか信用金庫、日刊工業新聞社が共催し、コンテストを通じて日本の次代を担う若者の人材育成と新産業の創造を目的としています。

3人が優秀賞などを受賞
駅ムービーコンテスト

（株）JR西日本コミュニケーションズ主催の第2回「駅ムービーコンテスト」で、総合情報学部デジタルアート・アニメーション学科（現・デジタルゲーム学科）の学生3人が受賞しました。

優秀賞に選ばれたのは、小倉貫治さんの「おかえり」。市田俊介さん・清遠哲史さんの「限界突破」が審査員特別賞を受けました。

また、小倉さんの作品「おかえり」は、2月16日～22日、駅構内に設置されているデジタルサイネージJ・ADビジョンWEST（大阪駅・京都駅・天王寺駅・新大阪駅・三ノ宮駅：合計200面）で放映されました。

学生ビジネスプランコンテストで優秀賞
資産運用学科・堀内秀人さんと久本倫也さん

一般財団法人学生サポートセンター主催の「第12回学生ビジネスプランコンテスト」で、金融経済学部アセット・マネジメント学科（現・資産運用学科）の堀内秀人さんと久本倫也さんが共同で応募した作品が優秀賞を獲得しました。

受賞したプランは「アラームグラス～視野の広がる未来」で、参加した41大学・122作品の中から選ばれました。

1月27日、京都市の学生情報センター・セミナーホールで行われた表彰式で、堀内さんは受賞者を代表して「大変光栄です。すでに商品化されているものに比べ、どれだけ新規性があるのか、苦労した。一から創造していく力が、今後社会に出て重要だと思う」と、謝辞を述べました。

このコンテストは、創造性や意欲にあふれ、自分で考え自分で行動できる学生を一人でも多く育てることを目的に、開催されているものです。

堀内さん（左から2人目）と久本さん（その右）

プレゼンテーションを行う久本さん

賞を受ける樋口さんと廣畑さん

ワガヤネヤガワ・ベンチャービジネスコンテスト２部門で受賞

寝屋川市主催の「ワガヤネヤガワ・ベンチャービジネスコンテスト」で、金融経済学部 アセット・マネジメント学科（現・資産運用学科）の久本倫也さんが応募した「アラームグラス」が工業部門賞に選ばれました。また、工学部基礎理工学科森田研究室の樋口達也さん・廣畑源哉さんによる「五感で楽しむ!色が変わるうどん」が商業部門賞に選ばれました。

「アラームグラス」は、視覚障害者に数メートル先の障害物の形と距離を音で伝えるメガネで、視覚障害者が安全に外出できる社会に貢献しようとのプラン。「五感で楽しむ!色が変わるうどん」は、うどんにムラサキイモの色素、アントシアニンを練り込み、スダチ果汁入りのだし汁（酸性）につけることにより麺の色が紫からピンクに変化するうどん。

このコンテストは、工業、商業、農業、協働の4部門に対する学生のビジネスプランを募集するもので、130件の応募の中から1次審査、2次審査を通過して、今回の受賞となりました。

1月28日に寝屋川市のアルカスホールで行われたプレゼンテーションによる最終審査では、惜しくもグランプリを逃しましたが、商業部門賞のうどんは、1月25日付けの読売新聞で紹介されました。

JAF近畿地域クラブ協議会特別功労賞　自動車部

賞を受ける森教授と担井部長（左）

体育会所属の自動車部がJAF近畿地域クラブ協議会から「特別功労賞」を受賞しました。創部から50年間におよぶ、モータースポーツの振興に寄与してきた功績が認められたものです。

2月8日、大阪府吹田市のホテル阪急エキスポパークで行われた表彰式に、同部顧問をつとめた森幸治教授（工学部機械工学科）はじめ、自動車部の担井良輔部長や部員・OBらが出席しました。

自動車部は昨年8月、第50回大阪電通大チャリティーラリー「丹後半島ラリー2014」を、天橋立で有名な丹後半島で開催するなど、精力的に活動を続けています。

「近畿学生2足ロボリーグ」で優勝
自由工房

3月8日、大阪市の港区民センターで「近畿学生2足ロボリーグ」（KBL）の2014年度最終戦が開催され、自由工房のヒト型ロボットプロジェクトが、団体戦で優勝しました。この結果、リーグ内の年間順位が確定し、2014年度のチャンピオンになりました。

近畿学生2足ロボリーグは、近畿地区の5つの大学・専門学校のロボットクラブがホビーロボット3台によるチームを結成し、「デモンストレーション」「ラン」「バトル」の各競技を年間6回行い、年間王者を争っています。

自由工房は、2014年度リーグで3回優勝し、366ポイントを獲得しました。

構成団体
大阪産業大学 テクノフリーク部
大阪工業技術専門学校ロボットプロジェクト
大阪電気通信大学自由工房ヒト型ロボットプロジェクト
大阪工業大学機械工学研究部
立命館大学 ロボット技術研究会

ライフサポート学会奨励賞
医療福祉工学専攻・栗山大徳さん

3月5日～6日に東京電機大学東京千住キャンパスで開催された「第24回 ライフサポート学会」で、大学院医療福祉工学専攻・栗山大徳さん（指導教授：新川拓也教授）が、学外との共同研究の成果を認められ、奨励賞を受賞しました。受賞テーマは「乳児の吸啜（きゅうてつ）時における舌運動検出システムの開発」です。

同学会の選奨規定によると、奨励賞の授賞対象者は、「生命・生活支援技術の領域において、積極的に卒業研究または修士論文、博士論文のための研究を行い、かつ人格、学業共に優秀な4年制以上の大学の卒業・修了予定者（最高学年者）および高等専門学校の専攻科修了生」となっています。

受賞報告 ▶▶▶ 学生

グランプリの（左から）村井さん、伊藤さん、今西さん

優秀作品など8点がグランプリ受賞
なわてんグランプリ

2014年度の総合情報学部卒業研究展「なわてん」が2月7日、8日の2日間、四條畷キャンパスで開催されました。

14年度は168作品が発表され、2日目にコナミホールで行われたスペシャルイベント「なわてんグランプリ」で、グランプリ、準グランプリなどに8作品が選ばれました。

グランプリの映画「トライ!」について、審査委員長の楓大介教授は「落ち着いたカメラワークに加えて、チームワークが最高。クルー以外の人たちも見えてくる」と講評しました。

また、最後に挨拶した橘邦英学長は「今回の受賞を成功体験として、しっかりと胸に刻み、社会で活躍して欲しい」と激励しました。

＊　＊　＊

なわてんが開催された2月7日、四條畷キャンパス6号館1階の「エルスエヒロ」で、総合情報学部ホームカミングデーが行われ、久しぶりに母校を訪れた卒業生と恩師や後輩たちとの歓談の輪が広がりました。

ホームカミングデーの受付

グランプリ
「トライ!」　W：今西亮平、伊藤悠、村井愛美

準グランプリ
・「集落営農の担い手について」　Q：稲田勝成
・「globARhythm!:AR技術を用いた民族楽器の演奏体験システム」　T：足立尚寛

芸術賞
「ぽんでりうむ」　Q：澤田美那子、麻生真佐恵

学術研究賞
「立体駒を用いたデジタル摩訶大将棋の開発」
W：笠井智仁

アゴラ賞
「デジタルゲーム学科WEBページのリニューアル案」　W：正木良樹、高良和子

後援会賞
「肝臓手術サポートのためのメス先端位置推定」
T：土井万由子、筑紫啓雄

観客賞
「立体雲龍図」　Q：白井翔大

W：デジタルゲーム学科
Q：デジタルアート・アニメーション学科
T：メディアコンピュータシステム学科（現 情報学科）

「学長カレー」で激励

橘邦英学長が、優秀な活動や実績を残した学生を招待し、カレーを食べながら懇談し激励する昼食会を、2月25日、駅前キャンパスで開催しました。

この会は2008年から不定期で開催されており、今回は学外でのコンテスト受賞や難関資格の取得などで活躍した金融経済学部の学生を招待しました。

この日のために学長が用意したのは、食堂の通常メニューにはない特別なカレーで、レッドカレーとキーマカレー。

学生たちは、資格取得成功の秘訣やコンテスト受賞までの経験談を語るなど、学長と昼食を共にしながら、貴重な時間を過ごしました。

懇談する橘学長（左から2人目）と学生たち

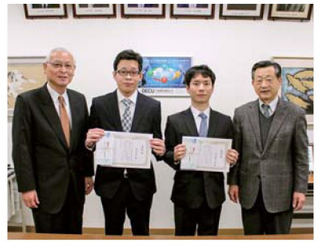
資格取得

証券と宅地建物取引の資格試験合格

「証券アナリスト第1次レベル」の全科目合格と、『宅地建物取引主任者』の資格を取得した金融経済学部アセット・マネジメント学科（現・資産運用学科）の学生2人が1月26日、中井正彦学部長と共に橘邦英学長を訪れ、資格取得の報告をし、表彰を受けました。

証券アナリスト第1次レベルの全科目に合格したのは、内田健太郎さん。この試験は、日本証券アナリスト協会の「証券アナリスト教育・試験制度」によるもので、株式など証券の分析・評価に必要な基礎的な知識と分析力の習得を目指す第1次レベルと、より高度な第2次レベルに分かれています。第2次試験まで合格し、実務経験3年以上の要件を満たすと、協会に検定会員として入会する資格が与えられます。

宅地建物取引主任者の資格を取得したのは安住勇紀さん。宅地建物取引主任者は、宅地建物取引業法に基づき制定された国家資格。4月1日から法律の改正により宅地建物取引士に名称変更され、不動産業界だけでなく、より幅広い分野での活躍が期待されています。


左から中井学部長、安住さん、内田さん、橘学長

国家試験合格率が全国平均を大きく上回る
臨床工学技士試験・理学療法士試験

3月に行われた平成26年度の臨床工学技士国家試験を受験した医療福祉工学科の学生44人のうち42人が合格しました。合格率は95.5%で、全国平均83.2%を大きく上回りました。

医療福祉工学科はメディアコミュニケーションセンターと独自のe-learningコンテンツを開発し、国家試験を受験する学生を強力にバックアップ。学科開設以来、国家試験合格率が11年連続で全国平均を上回っています。臨床工学技士国家試験合格者は国公立大学医学部附属病院、国立病院、公立病院などの特定機能病院・大病院に多く就職しています。

また、理学療法士の国家試験では、理学療法学科の学生26人受験し、25人が合格しました。合格率は96.2％（全国平均82.7％）。理学療法学科では、早い時期から実践的な模擬試験の実施など、学生と全教員が一丸となって取り組んできました。

●臨床工学技士
心臓手術で必要な人工心肺装置などの生体機能代行装置や人工呼吸器などの生命維持管理装置、血液浄化装置など先端医療機器の臨床応用、安全管理・指導を行うための医療系国家資格です。

●理学療法士
運動療法、水治療法、日常生活動作訓練などの理学療法を駆使して、身体機能の回復を図るリハビリテーションを行うことのできる資格を有する者です。

第1回ウェアラブルEXPOに出展

1月14日~16日、東京ビッグサイトで開催された第1回ウェアラブルEXPO「装着型デバイス技術展」に、松村雅史教授（医療福祉工学部医療福祉学科）の研究を基にした「ワラッテルWaratTell」が出展されました。

「ワラッテル」は、笑い、会話、咳などを検出するウェアラブルデバイス。マイクと3次元加速度センサーを搭載しており、家庭内のWi-Fi環境を通じてネットに繋いで、音声波形を記録します。そのデータをサーバー上で解析して、遠く離れて暮らす家族のスマートフォンにその状態を通知することで、暮らしの雰囲気を伝えるシステムです。

度々メディアで話題になっている松村教授の「爆笑計」の研究を基に、（株）ネクストが企画、ユカイ工学（株）がデザインとデバイス設計開発を担当しました。

ワラッテルWaratTellの出展ブースでは、2000部用意したパンフレットが3日間でなくなってしまうほどの盛況ぶりでした。また、松村教授は韓国のテレビ取材を受け、インタビューに答えました。

ブースでワラッテルを手にする松村教授

「ねや川春のハート祭り」に鄭研が出展

学生のサポートで試乗する参加者

3月1日、寝屋川市障害福祉室主催の「ねや川春のハート祭り」が寝屋川市立総合センターで開催され、工学部電子機械工学科・鄭聖熹准教授の研究室が出展しました。

出展したのは、「電池6本で走る電気自動車」と「立ち乗り型パーソナルモビリティービークル」で、展示とともに試乗が体験できるブースを出展し、鄭研の学生たちが説明役と試乗体験のサポートを行いました。

ブースで試乗を体験した参加者は「電池だけで走っているなんてすごい」、「乗っていて楽しい」などと、感想を話していました。

京都ビジネス交流フェアに出展

2月18日~19日、京都パルスプラザ（京都府総合見本市会館）で開催された「京都ビジネス交流フェア2015」に、新川研究室（新川拓也医療福祉工学科教授）が「乳児の吸啜（きゅうてつ）機能計測システム」を出展しました。

出展したのは、赤ちゃんのミルクを飲む能力を測るシステム。ミルクを飲むときの上手な舌の動き（舌と乳首の接触力）を簡単に計測・評価を行うもので、①母体にやさしい搾乳器など育児支援機器の開発②先天性疾患の早期発見など臨床への適用などが期待されています。

岩手県宮古市「第3回 みやこほっこり映画祭」に協力

東日本大震災の復興支援の一環として、11月22日~24日に岩手県宮古市で開催された「第3回みやこほっこり映画祭」（主催：ほっこりみやこ実行委員会）に、大阪電気通信大学が協力しました。

「みやこほっこり映画祭」は、東日本大震災で被災した宮古市の地域文化を活かした地域づくりプロジェクトで、地域のみんなで楽しむ参加型映画祭です。2012年にスタートし、第3回目を迎えた今回の映画祭では、心が“ほっこり”温まる感動映画（全17作品）が上映され、500人を超える来場者がありました。

来場者への記念品として、3D造形先端加工センターで製作した「みやこほっこり映画祭」ロゴマーク入りタグ200枚を提供しました。

映画のパネルを手にした皆さん

経済や証券をより身近に感じて
証券・金融1日体験プログラム

3月26日、日本証券業協会主催による「証券・金融1日体験プログラム」が大阪・北浜の日本証券業協会大阪地区協会で開催され、近畿圏の学校教育関係者約40人が参加しました。プログラムの一環として、駅前キャンパス・メディアセンターの見学会と金融経済学部長・中井正彦教授による講義が実施されました。

プログラム前半は、日本証券業協会の担当者による講義や造幣局の見学会が行われました。また、駅前キャンパスでは、榎本博行入試部長（工学部環境科学科教授）が大学紹介を行ったあと、12台のブルームバーグ端末を有するメディアセンターを見学しました。次いで、中井教授が「証券投資のリスクと正体」をテーマに講義を行い、リスクコントロールの重要性やリスク分散法などについて解説しました。

このプログラムは、近畿圏の学校教育関係者を対象に、講義・見学などを通じて、経済・証券・金融に関する基礎知識を学んでもらうとともに、証券・金融への理解を深めてもらうのを目的として開催されています。

いつでもどこでもらくらく学習
基礎学力強化e-learning

OECU MyDrill

教育開発推進センターでは、就職活動のSPI試験で主流となっているテストセンターとWEBテスティングに対応したe-learning システムを4月に導入しました。

この e-learningシステムは、自宅のパソコンやスマートフォン、タブレット端末での利用が可能なため、移動時間やスキマ時間にいつでもどこでも学習することが可能になっています。この e-learning システムと学習支援データベースOECU MyPageを活用しながら、学科教員、就職部職員との対面指導により、強力に学生の就職活動をバックアップしていきます。

また、このSPI のコンテンツとともに、基礎学力の向上を目的としたコンテンツも導入し、入学前教育や入学後の初年次教育の補完教材として、活用していきます。

SPI試験
SPI試験は、就職活動時に多くの企業などが受験者の能力・適性を測るために導入している試験で、WEBテスティング（WEBテスティングサービス）は、自宅のパソコンで受けるSPI、テストセンターは、テスト会社が用意した会場に出向いて、パソコンでSPIを受検する方式です。

長倉教授、大阪大学主催の医学講座で講演

3月1日、グランフロント大阪で開催された、大阪大学大学院医学研究科核医学講座・分子細胞薬理学講座共同企画シンポジウム『医用画像の新たな展開と未来に向けた研究・教育システム』で、長倉俊明教授（医療福祉工学部医療福祉工学科）が講演しました。

テーマは「医療画像の画像診断と画像処理技術の双方を有する教育方法の重要性」。長倉教授は講演で、医療福祉工学部での学生たちの画像診断や内視鏡画像の処理についての研究ぶりや、大阪大学医学部保健学科大学院との共同教育計画などを紹介し、「人材は様々な環境で育成すべきであり、医学部や工学部などの垣根を越えて実践すべきである」と話しました。

このシンポジウムは、医用画像技術の発展に向けて、現状の問題点を洗い出すとともに、その克服に向けた研究・教育システムについて紹介するのが狙いです。

25人がカナダへ
友電会主催「平成26年度（第35回）海外教育研修制度」

大阪電気通信大学友電会主催の「平成26年度（第35回）海外教育研修制度」による研修学生25人が2月28日から1ヵ月間、カナダ・バンクーバーのブリティッシュ・コロンビア大学（UBC）での研修を終え、3月29日に帰国しました。

一行は現地での初日・3月1日に自由行動でバンクーバー市内を散策。3日～27日までは、ホームステイしながらUBCに通い、1日5時間の英語研修をはじめ、課外活動や土日曜日の自由行動、オプションのスキーツアーなどを楽しみました。

なお、友電会による海外教育研修は今年度で終わり、来年度からは大学主催で実施されます。

スタンレー公園で

福田共和教授が副学長に就任

2015年2月1日付で、大阪電気通信大学の副学長に福田共和教授が就任しました。

福田副学長は、大学の管理運営に関する学長の業務を補佐するとともに、豊かな人間性を涵養する全学共通教育システムの見直しと再構築を図ります。

ふくだ　ともかず　1972年東京大学理学部物理学科卒業、77年東京大学大学院理学系研究科博士課程修了、大阪大学理学部物理学科助手。87年東京大学原子核研究所助教授、97年高エネルギー加速器研究機構助教授。98年東京大学大学院理学系研究科併任助教授。2001年大阪電気通信大学工学部第1部数理科学研究センター 教授、07年工学部基礎理工学科教授。09年4月～13年3月工学部長。理学博士、66歳。

高等学校校長に大音氏が就任

大阪電気通信大学高等学校の校長に、4月1日付で大音博司氏が就任しました。

おおおと・ひろし　1973年大阪電気通信大学工学部卒業。2007年守口市立錦中学校校長。66歳。

2014年度退職者送別会を開催

母校・大阪電気通信大学の2014年度退職者送別会が3月5日、大阪市北区のANAクラウンプラザホテル大阪で開催されました。

【退職者】（出席）　岡崎 芳（電気電子工学科）、石井徳章（機械工学科）、小南昌信（通信工学科）、楓 大介（デジタルアート・アニメーション学科）、平井史郎（デジタルゲーム学科）、網屋雅信（法人事務局）、小島正治（教務課）、河内了輔（メディアコミュニケーションセンター）、森山雅文（実験サポート課）、高木一郎（寝屋川就職課）（欠席）　竹山友子（ＡＥセンター）、中川眞由美（資産運用学科）、吉野衣美（情報教育特任講師）、松嶋和幸（図書館）、北野智世（庶務会計課）、佐々木政美（エレクトロニクス基礎研究所事務室）、島田基光（四條畷就職課）

人事異動

学校法人役員

理事　**成瀬　淳**（理事長）
橘　邦英（学長）
大音博司（高等学校校長）
寺西正光（法人事務局長）
池宮達雄（大学事務局長）
松浦秀治（工学部長）
大石利光（医療福祉工学部長）
福田共和（副学長）
田中孝憲（財務部長・広報部長）
芝井輝彦
（塩野フィネス株式会社相談役・一般社団法人日本賢人会議所理事）
森　強
（有限会社ひまわり顧問・株式会社日本特許情報システムズ顧問）
猪木武徳
（青山学院大学大学院国際政治経済学研究科特任教授・大阪大学名誉教授）
荒木光彦
（京都大学名誉教授・松江高専名誉教授）
河﨑忠弘（元日産自動車販売協会専務理事）
佐藤茂雄
（京阪電気鉄道株式会社最高顧問・大阪商工会議所会頭）
廣谷　明（滋賀県立大学非常勤講師）

監事　**松宮　徹**
（金沢大学大学院自然科学研究科客員教授・日本学術会議会員）
上林義則
（東洋テック株式会社常勤監査役・株式会社杉村倉庫監査役）

新任教職員（4月1日）

工学部

杉村寛子（すぎむら・ひろこ）
●英語教育センター教授
奈良女子大学大学院人間文学研究科比較文化学専攻博士後期課程単位取得退学。岡山県立大学保健福祉学部看護学科教授。文学修士。

職員

太田航平（おおた・こうへい）
●財務部施設課
2013年京都大学文学部人文学科卒業、15年京都大学大学院文学研究科現代文化学専攻。25歳。

岡田裕也（おかだ・ゆうや）
●教務部教務課
2013年甲南大学マネジメント創造学部マネジメントコース卒業、パナソニックシステムネットワークス㈱入社。システムソリューションズジャパンカンパニー。25歳。

平野弘樹（ひらの・ひろき）
●広報部広報課
2014年大阪大学外国語学部外国語学科卒業、TOTO㈱入社。24歳。

池嶋将行（いけじま・まさゆき）
●高校事務室
2009年同志社大学法学部法律学科卒業、味の素ゼネラルフーヅ㈱入社。29歳。

異動（4月1日）

役職教員

工学部長	松浦秀治
情報通信工学部長	来海　暁
総合情報学部長	魚井宏高
教務部長	佐野正彦
入試部長	榎本博行
図書館長	西岡　昇
教育開発推進センター長	川口雅之
実験センター長	岸岡　清
メカトロニクス基礎研究所長	松村雅史

教員昇任

教授	藤川智彦
教授	田中則子
教授	南角茂樹
准教授	吉田晴行

教員移籍

工学部電気電子工学科	小見山彰
工学部機械工学科	添田晴生
医療福祉工学部健康スポーツ科学科	淨慶一之

職員

法人事務局長 兼 内部監査室長 兼 法人事務局総務部国際交流企画室長	寺西正光
法人事務局総務部長事務取扱（次長待遇）	渡邊堅一
法人事務局総務部次長	小池達男
法人事務局財務部次長	谷　嘉久
法人事務局総務部総務課長	羽藤大資
法人事務局総務部秘書課長	中村文俊
法人事務局広報部広報課長事務取扱（課長補佐待遇）	米田祥馬
法人事務局財務部経理課係長	植田一正
学生部次長 兼 学生部学生課長	四元博文
教務部教務課長（兼務）	吉川　茂
就職部寝屋川就職課長	田中徳行
メディアコミュニケーションセンター事務室長（課長待遇）	岩村真吾
大学事務局研究支援室長（課長補佐待遇）	今城まどか
就職部寝屋川就職課長補佐	住友雄太
国際交流センター事務室長（課長補佐待遇）	石井一也
四條畷事務部四條畷学務課係長	福山雄二
教務部教務課係長	廣田康人
メディアコミュニケーションセンター事務室係長	浅島浩太
就職部寝屋川就職課長兼務を解く	不破信勝

高校

教頭	田村博司
高等学校事務室係長	福永浩一

イベント予告

オープンキャンパス開催!!

右記の日程でオープンキャンパスを開催します。

■会　場　寝屋川キャンパス・駅前キャンパス、四條畷キャンパス
■開催日　6月21日(日)・7月26日(日)・8月22日(土)
13:00スタート(12:30～受付開始)

6月　授業体験型オープンキャンパス

1つの学科をじっくり体験し、深く理解できる体験型プログラムです。

7月・8月　イベント参加型オープンキャンパス

約80種類のプログラムから自由に選んで参加することで、学問の広がりとつながりが見えてきます。

●ベンチと庭園灯が新しく設置されました!!

昨年12月に寝屋川キャンパスC号館跡地に完成した円形芝生広場の周囲に、ベンチ12脚と庭園灯6基が新たに設置されました。

これは、学生の保護者で組織する後援会から寄贈されたものです。設置にあたり3月7日、図書館ホールで贈呈式が行われ、河本智子後援会会長から高岡大造学生部長(工学部 環境科学科教授)に目録が手渡されました。

高岡学生部長は「J号館の食堂を利用する学生の憩いの場になるなど色々な活用が期待されます。いい設備を寄贈して頂きました。ありがとうございます」と、感謝の辞を述べました。

●寄附者芳名録

2013年2月より開始しました、寄附金募集に対し、多数の方々からのお申し込みを頂戴いたしました。ご支援いただいた皆様のご協力に感謝し、ここにご芳名を掲載させていただきます。

ご芳名者一覧

ご芳名は、2014年12月1日から2015年3月31日までにご寄附のお申し込みをいただいた方(個人)を掲載いたしました。

個人寄附(50音順・敬称略)

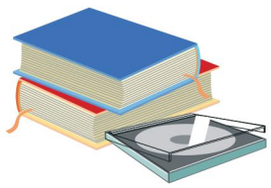
阿地　美千子	加賀美　淳
鯉谷　貴久	小嶋　久則
高松　佑吉	田中　敬子
中原　徹治	平田　政男
前川　尚三	眞壁　稼頌彦
宮本　文雄	守田　孝雄
吉原　隆佑	他8件

合計　¥2,760,707
(2015年3月31日現在)

●OECU古本募金 買い取り価格10%UPキャンペーンのお知らせ

「OECU古本募金」は、卒業生・在学生・保護者・教職員・一般の方々から書籍をお送りいただき、その買い取り金額を教育・研究に必要な書籍の購入費に充当する取り組みです。

キャンペーン期間中(2015年5月15日～2015年6月30日)は、書籍等の買い取り金額が**10%アップ**いたします。読み終えた書籍、聞き終えたCDや見終えたDVDなどございましたら、ぜひお送りください!

お申し込み方法など詳しくは下記をご参照ください。

http://www.furuhon-bokin.jp/oecu/